

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

剰余金配当基準日 3月31日(期末配当)
9月30日(中間配当)

定時株主総会 毎年6月(基準日:3月31日)

公告の方法 電子公告の方法により行います。

公告掲載URL

<http://www.nisshinbo.co.jp/>

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

株式に関するお手続き

【証券会社で口座を開設されている株主様】

当該証券会社にご連絡ください。

【証券会社で口座を開設されていない株主様】

三菱UFJ信託銀行(特別口座管理機関)にご連絡ください。

TEL 0120-244-479 (通話料無料:24時間受付)

ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

Web Information

—ホームページのご案内—

当社ホームページでは、当社のCM動画を公開しているスペシャルサイト「ドッグシアター」をはじめ、IR情報も充実させ、豊富なインフォメーションを掲載しております。是非ご利用ください。



Topページ



CMページ

アドレスはこちら▶

<http://www.nisshinbo.co.jp/>

NISSHINBO

第171期 中間期 株主通信

2013年4月1日～2013年9月30日



日清紡ホールディングス株式会社

〒103-8650 東京都中央区日本橋人形町2-31-11

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

VEGETABLE
OIL INK

日清紡ホールディングス株式会社

証券コード 3105

日清紡グループ企業理念

企業公器

企業は社会の公器であるとの考えのもと、地球環境問題へのソリューションの提供を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

至誠一貫

世界のさまざまな文化や慣習、さらには生物の多様性等を尊重し、企業人としての誇りをもって公正・誠実な事業活動を行います。

未来共創

変化への対応とたゆまぬ挑戦を続け、ステークホルダーの皆さまとともに豊かな未来を創造します。

Contents

株主の皆様へ	p-1
連結業績について	p-2
社長インタビュー	p-3
日清紡グループの事業概況	p-5
連結財務諸表の概要	p-7
トピックス	p-9
会社・株式概要	p-10



代表取締役社長

かわた まさや
河田 正也

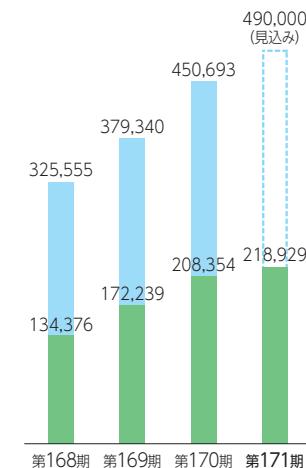
株主の皆様におかれましては、日頃より日清紡グループへのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社第171期第2四半期（2014年3月期中間期）の営業状況ご報告とともに、今後の事業展開についてご説明申し上げます。

売上高

218,929百万円
（前年同期比5.1%増）

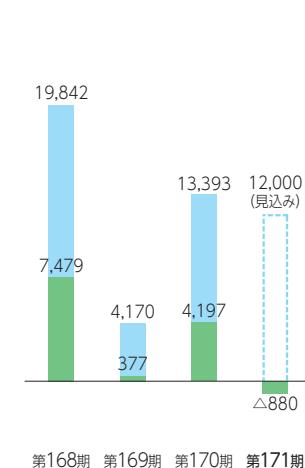
■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



営業利益

△880百万円
（前年同期比5,078百万円の悪化）

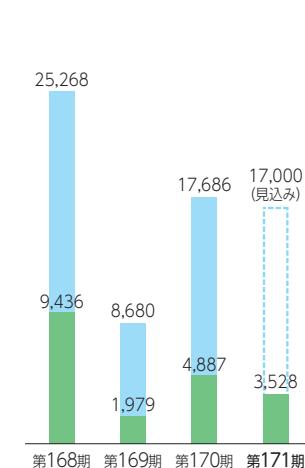
■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



経常利益

3,528百万円
（前年同期比27.8%減）

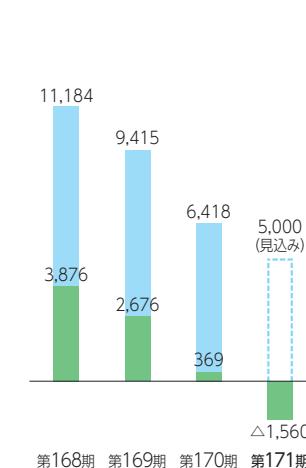
■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



四半期純利益

△1,560百万円
（前年同期比1,930百万円の悪化）

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



当第2四半期（中間期）の日清紡グループの連結業績は、前年同期比では大幅減益となりましたが、期初予想との比較では順調に推移しています。

売上高は、ブレーキ事業の海外子会社やエレクトロニクス事業のソリューション事業・半導体事業が好調だったことなどにより、増収となりました。

営業利益は、大型の不動産分譲により5,541百万円の利益を計上した前年同期との比較では減少し、

円安によりTMD社買収に伴うのれんの償却費等が円換算で増加したことなどにより、損失を計上しました。

経常利益は、為替差益や持分法による投資利益の増加などにより利益を確保したものの、四半期純利益は、特別損失に日本無線(株)の事業構造改善費用3,948百万円を計上したことなどにより、損失を計上しました。



2017年度経営目標の
実現に向けて、
経営3カ年計画
「NEXT2015」の達成に
邁進してまいります。

代表取締役社長 河田 正也

Q 日清紡グループの経営方針について教えてください。

日清紡グループは、社会・市場・ステークホルダーズに一層評価され、信頼される企業を目指しています。

そのためには、グローバル経営とキャッシュフロー経営をベースとし、コーポレートガバナンスやコンプライアンスなどの組織文化の質的向上と、ROE指標重視の収益力向上や株価重視の経営などの数値・業績の量的成長を、並行して実現していくことが必要だと考えます。

業績の向上については、2017年度に達成すべき目標を設定し、そのマイルストーンとして、本年4月に経営3カ年計画「NEXT2015」をスタートさせました。

「NEXT2015」では、2015年度に売上高5,500億円、営業利益240億円を目標に掲げています。この目標を達成することで、2017年度の経営目標である売上高6,000億円超、営業利益400億円超、ROE9%超に向けて、大きく前進したいと考えています。

◎ 経営3カ年計画「NEXT2015」

2015年度目標

売上高 5,500億円 営業利益 240億円

◎ 2017年度経営目標

売上高 6,000億円超 営業利益 400億円超
ROE 9%超

Q 経営3カ年計画「NEXT2015」の達成に向けた取り組みは？

経営3カ年計画「NEXT2015」の達成には、重点施策に掲げた「エレクトロニクス事業の再生と成長」、「ブレーキ事業の強化」、「グローバル化の推進」が不可欠です。

特にエレクトロニクス事業とブレーキ事業は、日清紡グループを牽引する二大事業セグメントです。2010年に日本無線グループ、2011年にTMD Friction Groupという大型M&Aを実施しましたが、M&Aの成果を最大限に発揮するべく、着実に対策を講じていきます。その他の既存事業についても、これまでに培った強みを活かし、収益体質の強化を図ります。さらに、2017年度経営目標の達成には新たなビジネスも必要ですので、環境・エネルギー分野の新技术を活用した新規ビジネスの事業化を進めます。

また、アジアを中心とする新興国の経済成長を取り込んでいかなければ日清紡グループの持続的な成長はありません。グループ全体でグローバル化を一層加速していきます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は「環境・エネルギーカンパニー」として、企業価値の向上を通じて市場での評価を高め、株価を上昇させるとともに安定した配当の確保が株主の皆様への責務であると考えています。

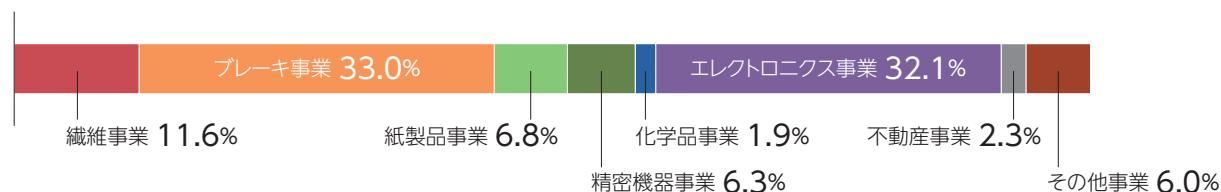
配当については年間15円の普通配当を基本とし、収益向上に応じて増配などの利益還元を行うことを目指します。当期の中間配当金は、1株あたり7円50銭とさせていただきます。

日清紡グループへのご理解と長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



日清紡グループの事業概況

◎事業別売上比率



繊維事業

シャツ、テキスタイル、デニムなど



国内では円安による仕入コストの上昇があったものの、ブラジルやインドネシアの海外子会社が好調だったことなどから、減収ながらも増益となりました。

ブレーキ事業

摩擦材、アッセンブリ製品など



タイ、韓国、米国の海外子会社の売上増やTMD社の業績が回復しつつあることから増収となり、TMD社買収に伴うのれんの償却負担等が円安により増加したものの、損失は縮小しました。

紙製品事業

家庭紙、洋紙、紙加工品など



家庭紙製品の売上増やファインペーパーの高級印刷紙のスポット受注などがあったものの、円安による原料コストの増加の影響などにより、損失を計上しました。

精密機器事業

太陽電池製造装置、精密部品、プラスチック成形品など



太陽電池製造装置の販売は市況低迷により減少したものの、太陽光発電システム設置事業およびプラスチック成形加工や精密部品事業が好調を維持し、増収となり黒字転換しました。

化学品事業

ウレタン・カーボン製品、機能化学品、燃料電池セパレータなど



断熱製品の売上減はあったものの、カーボン製品やエラストマー製品の売上増、燃料電池セパレータの好調などにより増収となり、損失は縮小しました。

エレクトロニクス事業

情報通信機器、半導体製品、電源・エネルギー機器など



防災行政無線システム等の売上増や半導体事業の好調などにより増収となりましたが、事業構造改革を進める中で、電源・エネルギー機器事業の一部縮小に伴う棚卸資産評価損を計上したことなどから、損失を計上しました。

不動産事業

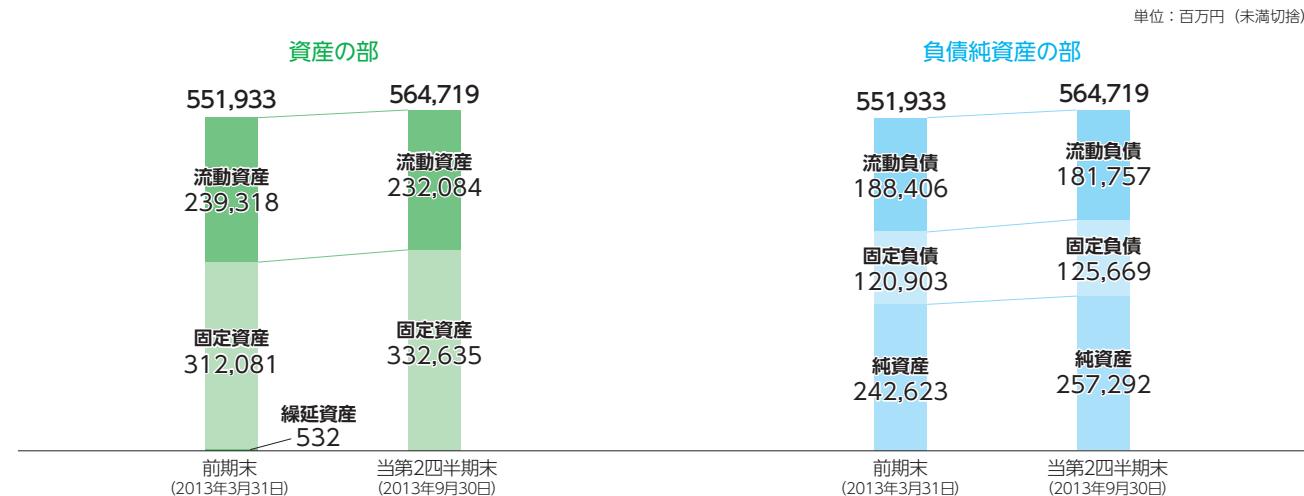
宅地分譲、土地・建物賃貸など



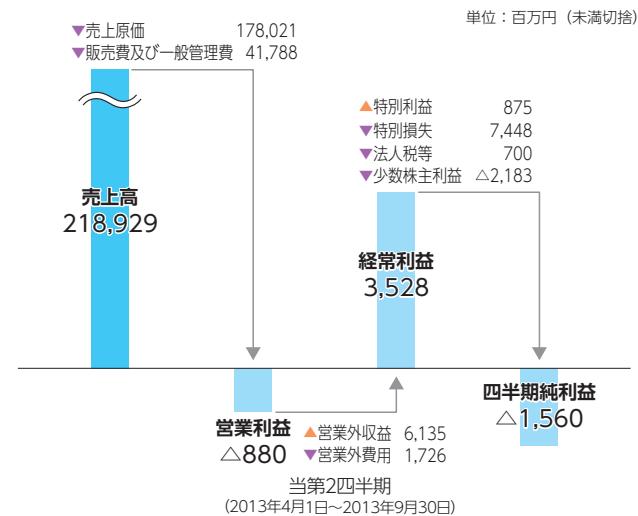
宅地分譲事業や土地・建物賃貸は順調に推移したものの、名古屋の工場跡地での大型分譲があった前年同期との比較では、減収・減益となりました。

連結財務諸表の概要

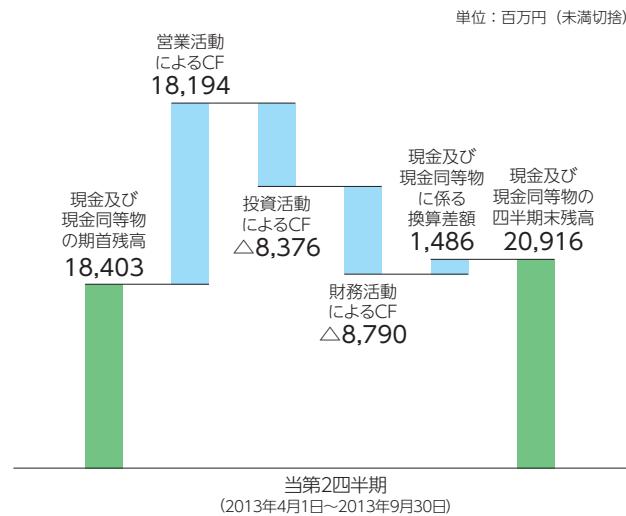
◎ 四半期連結貸借対照表の概要



◎ 四半期連結損益計算書の概要



◎ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要



◎ 四半期連結貸借対照表の要旨

単位：百万円（未満切捨）

科目	前期末 (2013年3月31日)	当第2四半期末 (2013年9月30日)	科目	前期末 (2013年3月31日)	当第2四半期末 (2013年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産	239,318	232,084	流動負債	188,406	181,757
固定資産	312,081	332,635	固定負債	120,903	125,669
有形固定資産	165,552	170,078	負債合計	309,309	307,427
無形固定資産	44,762	44,625	純資産の部		
投資その他の資産	101,767	117,931	株主資本	188,410	185,529
繰延資産	532	—	その他の包括利益累計額	20,964	39,493
資産合計	551,933	564,719	新株予約権	282	251
			少数株主持分	32,966	32,018
			純資産合計	242,623	257,292
			負債及び純資産合計	551,933	564,719

◎ 四半期連結損益計算書の要旨

単位：百万円（未満切捨）

科目	前第2四半期連結累計期間 (2012年4月1日から2012年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2013年4月1日から2013年9月30日まで)
売上高	208,354	218,929
売上原価	165,544	178,021
売上総利益	42,809	40,907
販売費及び一般管理費	38,611	41,788
営業利益	4,197	△880
営業外収益	3,200	6,135
営業外費用	2,510	1,726
経常利益	4,887	3,528
特別利益	184	875
特別損失	1,573	7,448
税金等調整前四半期純利益	3,498	△3,043
法人税等	3,643	700
少数株主損益調整前四半期純利益	△145	△3,744
少数株主利益	△514	△2,183
四半期純利益	369	△1,560

◎ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円（未満切捨）

科目	前第2四半期連結累計期間 (2012年4月1日から2012年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2013年4月1日から2013年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,371	18,194
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,661	△8,376
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,285	△8,790
現金及び現金同等物に係る換算差額	△247	1,486
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,823	2,513
現金及び現金同等物の期首残高	16,904	18,403
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	788	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,868	20,916

◎メガソーラー完成

当社徳島事業所(徳島県徳島市)に大規模太陽光発電所(メガソーラー)が完成し、本年7月29日より営業運転を開始しました。このメガソーラーの最大出力は1.75メガワットで、一般家庭約600世帯分の電力を賄うことができます。

今回完成したメガソーラーは、日清紡メカトロニクス(株)が設置事業者となって建設しました。同社は太陽電池パネル製造装置メーカーであるとともに、パネルの設置事業も展開しています。設置事業で得た経験や知見を製造装置や材料の開発に活かし、日清紡グループの太陽光ビジネスをより一層強化します。



◎藤枝事業所いちご出荷開始

当社では、藤枝事業所(静岡県藤枝市)の完全制御型植物工場で栽培した一季成りいちご「あぼろベリー®」を、今秋から関東・東海地方に向けて出荷を開始しました。

一季成りいちごは、これまで初夏から晩秋にかけてはほとんど収穫することができず、この間は海外から輸入した酸味が強く小粒な四季成りいちごで代用しているのが現状でした。年間を通じて安定した品質で供給できる「あぼろベリー®」の特長を活かし、主にケーキ用として販路の拡大を目指しています。



災害支援 株主優待制度を通じて「東日本大震災義援金」へ寄付

今年度の株主優待において、東日本大震災の被災地復興支援のため、日本赤十字社の「東日本大震災義援金」をお選びいただきました株主様には、厚く御礼申し上げます。

今回は218名の株主様から寄付のお申し込みをいただきました。これに日清紡グループの従業員と当社からの寄付を加えて、総額100万円を日本赤十字社に寄付いたしましたので、ご報告申し上げます。

◎会社概要

商号	日清紡ホールディングス株式会社 Nisshinbo Holdings Inc.
設立	1907(明治40)年2月5日
資本金	27,587,976,204円
従業員	231名(単体) 21,931名(連結)
本社	〒103-8650 東京都中央区日本橋人形町2-31-11

◎主なグループ会社

グループ会社	131社(国内46社、海外85社)
・連結子会社	97社
・非連結子会社	15社(うち持分法適用会社2社)
・関連会社	19社(うち持分法適用会社7社)

繊維事業

日清紡テキスタイル(株)、CHOYA(株)、ブラジル日清紡、ニカワテキスタイルインダストリー、日清紡インドネシア

ブレーキ事業

日清紡ブレーキ(株)、TMD FRICTION GROUP S.A.、日清紡オートモーティブマニュファクチャリング、日清紡ソープンオートモーティブ、セロン・オートモーティブコーポレーション

紙製品事業

日清紡ペーパープロダクツ(株)、日清紡ポスタルケミカル(株)、東海製紙工業(株)、大和紙工(株)

精密機器事業

日清紡メカトロニクス(株)、日清紡精機広島(株)、日清紡メカトロニクス(上海)、日清紡メカトロニクス(タイランド)

化学品事業

日清紡ケミカル(株)、(株)日新環境調査センター

エレクトロニクス事業

日本無線(株)、新日本無線(株)、長野日本無線(株)、上田日本無線(株)

◎役員

取締役

取締役会長*1	鵜澤 静
取締役社長*1	河田 正也
取締役副社長*1	恩田 正義
取締役副社長	五十部 雅昭
取締役常務執行役員	村上 雅洋
取締役執行役員	萩原 伸幸
取締役執行役員	西原 孝治
取締役執行役員	木島 利裕
取締役*2	秋山 智史
取締役*2	松田 昇典
取締役*2	清水 啓

*1は代表取締役 *2は社外取締役

監査役

常勤監査役	井出 義男
常勤監査役	佐塚 政男
監査役*	川上 洋彦
監査役*	富田 俊彦

*は社外監査役

◎株式状況

発行可能株式総数	371,755,000株
発行済株式総数	178,798,939株
株主数	12,989名

◎所有者別株式分布状況

